

## 4日 木曜

### 列王 II

7:3 さて、ツアラアトに冒された四人の人が、町の門の入り口にいた。彼らは互いに言った。「われわれはどうして死ぬまでここに座っていなければならないのか。」

7:4 たとえ町に入ろうと言ったところで、町は食糧難だから、われわれはそこで死ななければならない。ここに座っていても死ぬだけだ。さあ今、アラムの陣営に入り込もう。もし彼らがわれわれを生かしておいてくれるなら、われわれは生き延びられる。もし殺すなら、そのときは死ぬまでのことだ。」

7:5 こうして、彼らはアラムの陣営に行こうと、夕暮れになって立ち上がり、アラムの陣営の端まで来た。すると、なんと、そこにはだれもいなかった。

7:6 これは、主がアラムの陣営に、戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎを聞かせたので、彼らが口々に「見よ。イスラエルの王が、ヒッタイト人の王たち、エジプトの王たちを雇って、われわれを襲って来る」と言い、

7:7 夕暮れに立って逃げ、自分たちの天幕や馬やろば、陣営をそのまま置き去りにして、いのちからがら逃げ去ったからであった。

7:8 ツアラアトに冒されたこの人たちは、陣営の端に来て、一つの天幕に入って食べたり飲んだりし、そこから銀や金や衣服を持ち出して隠した。また戻って来てはほかの天幕に入り、そこからも持ち出して隠した。

7:9 彼らは互いに言った。「われわれのしていることは正しくない。今日は良い知らせの日なのに、われわれはためらっている。もし明け方まで待っていたら、罰を受けるだろう。さあ、行こう。行って王の家に知らせよ

う。」

7:10 彼らは町に入って門衛を呼び、彼らに告げた。「われわれがアラムの陣営に入ってみると、なんとそこにはだれの姿もなく、人の声もありませんでした。ただ、馬やろばがつながれたままで、天幕もそっくりそのままでした。」

ツアラアトとは皮膚の疾患を伴う重い病です。国をアラム軍に包囲され、多くの人が命を惜しむあまり、子を食べるなどの残酷なことまで起き、またどうして良いか分らず、混乱の中にいました。ところがこの病の4人は、命が短いことを知っていることにより、大胆な行動にすることができました。

世は滅びに向かっている。そして自分たちはそこに固執していても、希望がない。ならば少しでも可能性のある方に向けようというのです。その決断は主のご計画の中にありました。主がアラムの陣営に恐れを起こさせたので、彼らは逃げてしまったのでした。

病の4人はその良い知らせの目撃者であり、また享受者となりました。初めはこの楽しみを隠して自分たちだけのものにしていましたが、それが「正しくない」ことに気づいて、良い知らせを伝えに行ったのでした。

この一連の出来事は、救いや信仰の前進を思わせるものです。主の前に自分自身の現状を見極め、救いへの決断または信仰的前進の決断をする姿です。主は見捨てられた者、またはそれほどにへりくだった者に大きな希望を与え、全てが主の恵であることを示されます。

この4人は単に一王国の限定的な救いに参加しただけでしたが、私たちは国も民族も時代も越えた、永遠の救いに参加することができるのです。すばらしい福音の時代に感謝しつつ、謙遜と勇気を持って決断しましょう。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

